

平成 24 年 10 月 30 日

電通、環境対策に関する情報開示度を測る「CDP2012」で広告会社世界一に

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：石井 直）は、社長を議長とする「環境戦略会議」を設置し、環境問題に対して積極的に取り組んでおりますが、10月30日にカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト(以下「CDP」)^{※1}が公表した、世界の大手企業の地球温暖化対策や温室効果ガス排出量の開示について評価する「CDP 2012」^{※2}において、83ポイント（満点は100ポイント）という高いディスクロージャースコアを獲得し、世界の広告会社としてトップの成績を収めました。

今日、CDP の調査結果は企業の低炭素社会への対応力を評価する世界共通の格付指標として投資家からも高い関心を集めています。こうした中、当社では、CDP が ISO 基準などと同様に企業価値を判断する世界標準になるとの観点から、2008年より取り組みを続けてきました。

ディスクロージャースコアは、気候変動関連のリスクと機会への理解、開示の広さ、頻度、妥当性、またそのデータについて第三者機関による検証を受けているかが判断基準とされています。当社は、気候変動防止への取り組みとその内容についての開示を積極的に行うことで、2012年度は83ポイントと前年度の74ポイントを上回る高いスコアを獲得し、世界の広告会社の中でトップとなりました。なお、上位の広告会社のスコアは次のとおりです。WPP グループ（81ポイント）、イージスグループ（79ポイント）、オムニコムグループ（55ポイント）。

当社は、今後も積極的に環境への取り組みを推進していくとともに、コミュニケーションのリーディング・カンパニーとして、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

以 上

※1：カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト(CDP)

CDP は、2000年に英国で発足した非営利組織で、民間企業に共通の質問書を送り、その回答を集めることで、気候変動に関する情報を分析・公表している。欧米諸国の政府や各国投資家などの支援を受けて運営されており、現在、企業の気候変動対策に関する世界最大のデータベースを保有する団体とされる。

※2：CDP2012

CDP2012は、合計運用資産額78兆米ドルに達する世界655社の機関投資家や金融機関を代表して実施。日本の対象企業は、国連投資責任原則が選定する500社。